

小さなことが大きな力に

みんなでエコドライブ

動物は愛情と責任をもって終生飼いましょう

毎年9月20日から26日までは「動物愛護週間」です。これを機会に、ペットなど私たちの身近にいる動物の愛護と管理について考えてみましょう。
問い合わせ 環境課 絹村 ☎⑤2609



しましょう。

犬の登録や住所変更、死亡時には届出書の提出を

犬を飼い始めたら30日以内に、市への登録が必要です。また、登録事項の変更や死亡した場合などにも30日以内に市へ届け出が必要です。

*転出した場合には、転出先の市区町村へ届け出しましょう。

狂犬病予防注射の実施

狂犬病は現在国内での発生はありませんが、発症すると犬も人も100%死亡する恐ろしい感染症で、毎年世界中で5万人以上が亡くなっています。犬を飼い始めたら30日以内に、次年度からは毎年4

月1日から6月30日までに狂犬病予防注射を実施しましょう。

犬鑑札と注射済票を装着しましょう

犬鑑札と注射済票の装着は、迷子札になるだけではなく、災害時には周囲の人への安心感にもつながります。



「犬の散歩=トイレ」ではありません

排泄は散歩の前に自宅で済ませる習慣をつけましょう。また、散歩のときは袋と水を持参し、ふん尿をした際には必ず後始末を行いましょう。

ノーリードは禁止です

公園や海岸などで犬を放すことは禁止しています。犬を放して遊ばせたい時には、ドッグランを利用



猫は室内で飼いましょう

飼い猫を外に出すと、近隣でのふん尿などによるトラブルや交通事故、猫のけんか、感染症などが起こる可能性があります。室内環境を整え室内で飼いましょう。外に出てしまった時のために、不妊去勢手術や迷子札を付けましょう。

無責任な餌やりはやめましょう

野良猫によるふん尿などの被害を

受けている人がいます。無責任に餌をやるだけでは、近隣の理解は得られず、猫そのものも嫌われてしまします。餌をやるのであれば、管理すべき猫を特定し、不妊去勢手術をしたうえで置き餌をせず、ふん尿などの始末を行うなど適正な猫の管理に努めましょう。

不妊去勢手術助成事業

市では飼い主のいない猫(野良猫)の不妊去勢手術費用の助成制度があります(不妊去勢手術目的の捕獲器の貸し出を行っています)。

対象者

市の協力動物病院で、野良猫に不妊去勢手術を実施する市内在住の人、または在勤の人
*事前に市が行う講習会を受講すること。

▶助成額
手術費の6割またはメス1万円、オス5千円のいずれか少ない額(予定数60匹)
*先着申し込み順。

▶問い合わせ
申請方法などの詳細は、環境課 ☎⑤2609または市ホームページ
牧之原市 猫 不妊去勢 [で検索](#)



市では環境省が提唱する国民運動の「COOL CHOICE」(賢い選択)に賛同し、地球温暖化対策への取り組みを進めています。今回はエコドライブを紹介しますので、運転する皆さんエコ活動を実践してみましょう。

問い合わせ 環境課 永田 ☎⑤2609

優しい運転の積み重ね

「急がない。乱暴にならない。ゆっくり加速、ゆっくりブレーキ。車間距離にゆとりを持つ」などの実践がエコドライブです。

一つ一つは小さなことかもしれませんが、みんなで取り組めば、大きな力になります。また、環境への負荷や交通事故が減り、あなたやあなたを取り巻く人たちの幸せにつながります。エコドライブには特別な知識も、高度な技術も必要ありません。大切なことは思いやりの気持ちを持ち続けること。環境に、人に、優しい運転を積み重ねていくことです。



未来のために、いま選ぼう。

皆さんも賛同ください。詳しくは、[クールチョイス](#)で検索

ます。程やかに踏んで発進しましょう。車間距離をとり、加速や減速の少ない運転で走ること。そのためにも、走行中は車間距離を十分にとり、ゆったり走行しましょう。定速度で走ること。そのため停止することが前もってわかれたら、早めにアクセルから足を離しましょう。直のエアコンは車内の冷却が必要なときは冷やしすぎないようにしましょう。

迷惑駐車は他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。日々の燃費を把握することで、自分のエコドライブ効果が実感できます。

車の燃費は荷物の重さに大きく影響されます。必要な荷物は降ろしましょう。車の燃費は荷物の重さに大きく影響されます。必要な荷物は降ろしません。

車の燃費を把握しそうな荷物は降ろしません。

車の燃費は荷物の重さに大きく影響されます。必要な荷物は降ろしません。